

大学院入学試験問題
(一般入試・社会人入試)

人文学 専攻

問題種別 専門試験

分野・専門 国際・地域共生促進コース

試験科目 論述

次の10問の中から、自分の研究計画に出来るだけ近い2問を選んで解答しなさい。解答は下記の「解答上の注意」にもとづいて書きなさい。

解答上の注意

- ①解答は1問につき答案用紙1枚以内で書きなさい。
- ②答案用紙には、受験番号、選択した問題番号を書きなさい。
- ③同一の答案用紙に複数の問題の回答を書いてはいけません。また答案用紙の裏面を使ってはいけません。

問題1 文学作品にとって作者の存在はどのような意味や機能があるか、日本語文学の作品を具体例としてあげて、論じなさい。

問題2 アクティヴィズムと文学の関係にはどのような例があるか、日本語文学の中から、時代や作家・作品を具体的に示して、論じなさい。

問題3 外国にルーツを持つ子供への日本語教育と継承語(母語)教育との関係について論じなさい。

問題4 地域日本語教育におけるコーディネーターの必要性和役割について論じなさい。

問題5 海外から日本を訪れる観光客は年々増え、近年はインターネットの影響によって日本でもあまり知られていない場所に外国からの観光客が多く集まるという現象も起きている。この状況について、異文化接触という観点から、インターネット普及以前と比べ、どのような特徴があるか論じなさい。

問題6 スペイン語(カスティーリャ語)とポルトガル語は、いずれもイベリア半島起源で、近親関係にある言語である。話者数に関しても、前者は4億人以上、後者も約2億人を有し、世界で広範囲で使用される言語であるという点で共通している。しかしこれら2言語話者の分布と使用状況についてはかなりの相違が見られる。これらの相違点について論じなさい。

問題7 社会における「個」や「主体」を individual とみる場合と、social agent とみる場合とでは、概念上どのような相違があるか論述しなさい。

問題8 文化人類学におけるフィールドワークの歴史について概説しなさい。

問題9 近年、人種、出身国、民族、宗教、性的指向、性別、障害など自ら主体的に変えることが困難な事柄に基づいて、個人または集団を攻撃、脅迫、侮辱する行為や言動、いわゆるヘイトスピーチ(憎悪表現)が増大している。ヘイトスピーチは現代社会の様々な局面において重大な問題となりつつあり、各国・地域でその防止のための対策が講じられている。(1)ヘイトスピーチが引き起こされる背景について、ミクロ的あるいはマクロ的視点から説明し、(2)解消のための具体策を提案しなさい。

問題10 日本で生活している外国人女性が抱える「問題」の例を挙げ、そ(れら)の原因を述べなさい。